

透析患者における排尿機能と排便機能の性差

山下 かおり 近藤 恒徳

東京女子医科大学東医療センター泌尿器科

【はじめに】血液透析患者の自排尿がある間の尿所見，尿量，排尿症状についての男女差の有無はあまり検討されていない．今回，我々は血液透析患者の尿所見，尿量，排尿機能の性差について検討した．排便機能の性差も検討した．

【対象と方法】東京女子医科大学東医療センター血液浄化部，ときわ会富岡クリニックの血液透析患者を対象に主要下部尿路症状スコア，一般検尿，尿培養，残尿量，最大排尿量，1日尿量，排尿回数，排便に関してはブリストール便性状スケール，PAC-QOL (patient assessment of constipation-QOL)を行った．

【結果】2020年8月までの中間報告であるが，男性39人，女性30人が集計可能であった．排尿症状は男性では尿勢低下，腹圧排尿，女性では尿意切迫感，腹圧性尿失禁が多かった．尿道・膀胱痛は男女ともなかった．一般検査では女性の方が膿尿，尿路感染症を認めた．尿培養でも菌種は多岐にわたっていた．残尿量は男性の方が多かった．1日排尿量は男女共，透析歴2年後から急激に減少していた．昼間排尿回数は男性の方が多かった．ブリストール便性状スケールでは男性の方が，便が硬い傾向があった．

【考察】透析患者においても下部尿路症状や検尿所見に性差があることがわかった．発表時には患者数をさらに増やして考察し，報告する．